

## サルモネラ汚染飼料原料のリスク

スウェーデン :サルモネラが飼料原料である大豆粕の 15%から分離されました。さらに 5 ヶ所の飼料工場で製造された肥育飼料の 13%にも分離されました。

スウェーデンのウプサラ大学の研究グループが、大豆粕をはじめ様々な植物性の圧片飼料原料のサルモネラ汚染と人のサルモネラ症との関連づけが本格的に調査されました (*Acta Veterinaria Scandinavica*)。ある会社に所属する飼料工場から 78 ヶ所の農場に納品された製造飼料サンプルから相次いでサルモネラが発見されました。これがきっかけとなり、本格的に他の工場由来の飼料サンプルや、人で発生したサルモネラ菌との相同性なども調べられました。

調査の結果、輸入された大豆粕製品のうち 14.6%から 38 もの血清型菌株が分離されました。その他の原料でも菜種粕からは 10%、コーンから 9%、ヤシ油原料から 0.9%と一定の割合で汚染されていることが分かりました。会社は素上の分からない大豆粕、あるいは汚染原料を輸入していることが分かりました。統計調査の結果、この会社が使用している植物原料がサルモネラに汚染されている可能性は、他の工場由来の同等商品に比べて 2.4 倍ものリスクがあったことが報告されました。通常は考えられないことです。飼料工場の汚染レベルも遥かに高いこともわかりました。飼料工場から分離された 38 株のうち、4 つは EU で 2007 年に発生した人のサルモネラ症の原因菌としてリニアアップされていた 10 菌株に含まれていたものでした。*S. Agona*, *S. Infantis*, *S. Kentucky* そして *S. Typhimurium* などでした。さらに分離株の内の 30 株はなんと 10 年間 (1997-2007) にスウェーデンで発生した人のサルモネラ症の菌として確認されているものと同じでした。

このことから研究者らは飼料原料に含まれていた汚染サルモネラは過去の経緯からも人で発生したサルモネラ症の発生に重要な関わりがあるのではないかと結論付けています。

EU で頻繁に発生しているサルモネラ症を解明するうえで、より一層努力が必要なことが示唆されました。EU の飼料工業内で使用される 98%もの大豆粕が圧片化されたものであり、しかも素上の分からない輸入物であった点を考慮して、今後の飼料原料のチェックは最善をつくさねばならないことが結論付けられました。

( Wierup M. and P. Häggblom. 2010duction. *Acta Veterinaria Scandinavica*, 52:15  
doi:10.1186/1751-0147-52-15.の報告のダイジェスト版を参考)

2010 年 11 月 グローバルピッグファーム(株)